

1 本市の現状・課題

令和6年11月1日 南相馬市

- 令和7年度は、第2期復興・創生期間の最終年度であるとともに、南相馬市第三次総合計画前期基本計画の折り返しとなるため、本市の復興・再生と、総合計画に掲げる将来の姿の実現に向け、取組を着実に推進する重要な年となる。
- 本市の財政状況は、近年の経済状況等により、市税や交付税等の一般財源の増加が見込めない中で、引き続き増加する社会保障関連経費や、維持補修に要する経常経費などの財政需要の増加により、厳しい状況にある。
- 目まぐるしい社会経済状況等の変化に加え、これまでの「目の前の課題解決による復旧・復興」から「中長期を見据えた創造的復興」という新たな復興のステージを見据え、本市が持続的に発展していくための未来を見据えた施策を展開していくとともに、それを支える財政基盤の健全性の堅持にも努める必要がある。
- このことから、新たに策定した「南相馬市中長期財政計画」のもと、健全で持続可能な財政運営に一層配慮しながら、施策・事業の「選択と集中」による徹底した見直しや財源確保を図り、質・量ともに最適な行政サービスを意識し、以下を踏まえた予算編成が重要となる。

2 予算編成の基本的な考え方

令和7年度は、本市のまちづくりの基本目標の実現に向け、令和7年度南相馬市行政経営方針に基づき、全庁一円融合となって、総合計画を着実に推進するための予算編成に取り組む。

①第三次総合計画の着実な推進

総合計画に掲げる7つの政策の柱に基づく事業等に優先的に予算配分するとともに、特に、**南相馬市行政経営方針に掲げる「重点分野」に重点配分（重点経費）**するなど、積極的に予算措置を行う。

②健全で持続可能な財政基盤の維持

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ● 中長期財政計画に基づく財政健全化対策 | ● 事業の選択と集中 |
| ● 執行残削減の取組 | ● 特定財源の積極的な活用と自主財源の確保 |
| ● 予算編成と連動した執行体制の見直し | ● ファシリティマネジメントの推進 |
| ● 復旧・復興事業の見直し | |

3 当初予算フレーム

令和7年度予算フレーム（一般財源ベース）は、裏面に掲載のとおり。

厳しい財政状況の中で、市民サービスの水準を維持しつつ、新たな課題に対応するため、各部局別の枠配分額の設定及び執行残削減の取組等により必要な財源を捻出し、重点分野等に優先的に予算を配分するなど、メリハリのある予算を目指す。

【予算編成手法】

- | | | |
|---|--------|--------------------|
| ①重点経費（新規事業） | ②政策的経費 | } 一件査定（所要額） |
| ③義務的経費等 | ④投資的経費 | |
| ⑤上記を除くその他の経費： 区・部枠配分※ （物件費・補助費：R6一般財源額 約▲2%）
（維持補修費：R6一般財源額 + 2%） | | |

※要求額が区・部枠配分の範囲内の場合、基本的に査定は行わない方針であるが、市としての統一性が必要な場合や政策的な観点、あるいは予算編成の過程で収支不足が生じた場合等、必要に応じて調整を行う。

令和7年度当初予算フレーム（一般財源ベース）

歳出予算 231億円※1（240億円）／ R6当初比 3.8%減

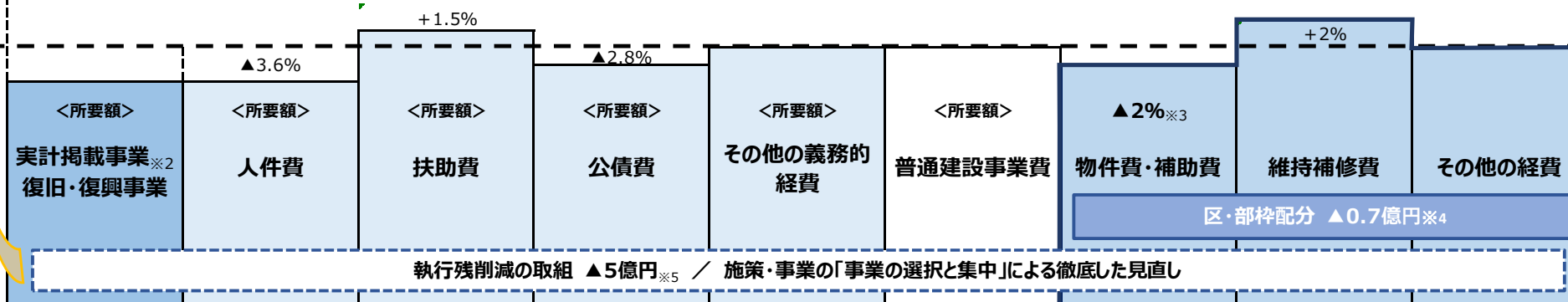
新規

（注）※1 R7歳出総額236億円－枠配分（※4）▲0.7億円－執行残削減の取組（※5）▲5億円＋重点経費（新規事業）1億円＝231億円

← 執行残削減の取組 ▲5億

①重点経費
（新規事業）
1億円（1.3億円）

歳出



→ R6当初一般財源 ←

執行残削減の取組を
含まない歳出総額
※236
億円

②政策的経費
41億円
（41億円）

③義務的経費等
156億円
（159億円）

④投資的経費
2億円
（2億円）

⑤その他の経費
37億円
（38億円）

（注）「南相馬市中長期財政収支の見通し（令和6年10月）」「南相馬市中長期財政計画」に基づき算出。（ ）の数値はR6当初予算額。

歳出の区分ごとの見込額については、事業単位で分類し算出。

※2 R7実施計画掲載事業の額は、南相馬市第三次総合計画第3次実施計画に基づくR7計画額

※3 物件費・補助費の抑制（南相馬市中長期財政計画に基づく収支改善に向けた取り組み）▲3%＋その他物価上昇分＋1%：約▲2%

※4 上記、物件費・補助費の抑制▲約2%、維持補修費の伸び＋2%を加味した縮減額

※5 R5決算において執行率が90%以下の事業について、予算要求限度額を設定することによる縮減額